



JSR株式会社 2025年3月期 事業状況説明会

2025年5月20日

0 免責事項



本レポートは、JSR株式会社の事業状況を説明することを目的としています。

当社は、本レポートの使用に基づいて貴社が下したいかなる決定に対しても、責任を負うものではありません。

本日の資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでいます。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、研究開発の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の市場傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

ソーシャルメディアにて発信する情報の取り扱いについて

当社が公式に発信する情報は、当社ウェブサイトに掲載されるニュースリリースや決算情報等、ならびに後述する当社の企業アカウントによるものであり、当社社員がソーシャルメディアを通じて投稿する情報については、必ずしも当社の公式な見解を表すものではありません。

当社のソーシャルメディアの企業アカウント

当社の企業アカウントは以下になります。このアカウント以外は当社の公認ではありません。

JSR LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/jsr-corporation/>

1. 決算ハイライト
2. 2025年3月期通期業績
3. セグメント情報
4. まとめ

【表記注記】

デジタルソリューション事業	: DS
半導体材料	: SEMI
メタルオキサイドレジスト	: MOR
ディスプレイ材料	: DISP
有機ELディスプレイ	: OLED
エッジコンピューティング材料	: EC
ライフサイエンス事業	: LS
合成樹脂事業	: PLA



FY24決算

- FY24の結果
 - 売上高 4,050億円
 - コア営業利益 2億円
 - 当期純利益（損失） -2,177億円
- コア営業利益ではDSが収益拡大するもLSで赤字計上。
 - DS:各事業増収増益。SEMIは対前年30%売上拡大し最高益を更新。
 - LS:CDMOの新工場の稼働停止の影響。バイオテック業界は低調に推移。
 - PLA:対前年利益はFlat。自動車業界の回復遅れ。
- LS事業等の減損で1,576億円、TOB後のPPA償却費等で405億円、その他事業構造改革費用で120億円を計上（減損及びPPA償却はノンキャッシュ）。
- 2025年4月にIVD事業の株式譲渡契約締結を発表した（株式価値820億円。FY24決算には未反映）。

※当資料では前年比較を容易にするため、コア営業利益からはLS事業の減損、PPA償却費を除いています。

FY25見通し

- コア営業利益300億円超を見込む。更に事業譲渡益を見込む。LSの一過性損失はなくなる。
 - DS：AI関連を始め市場成長は継続見通し。SEMIは先行投資を強化。高シェアを継続。
 - LS：CDMO新工場の稼働は再開済み。安定稼働を継続。市況は回復方向。
 - PLA：販売強化とコスト効率向上を継続し利益拡大を見込む。
 - 発表済みのETEC、IVDの事業譲渡に関する利益を計上する予定。
- 米国関税の直接的な影響は限定的だが、需要全般への影響を各セグメントで注視する。

今後の方針

- DSの3事業(SEMI, DIS, EC)を成長ドライバーに中期計画を始動。2030年までに1000億円のコアOP達成を目指す。
- PLAは高付加価値品へのシフトを強化していく。
- LSは非中核事業としあらゆる選択肢の検討を継続する。併せて財務構造を改善する。
- 当面は自律成長を優先。将来は半導体材料業界の再編を伴う再上場を目指す方針に変わりはない。
- グローバルトップの先端技術企業として存在感を増していく。

2-1 2025年3月期 通期業績

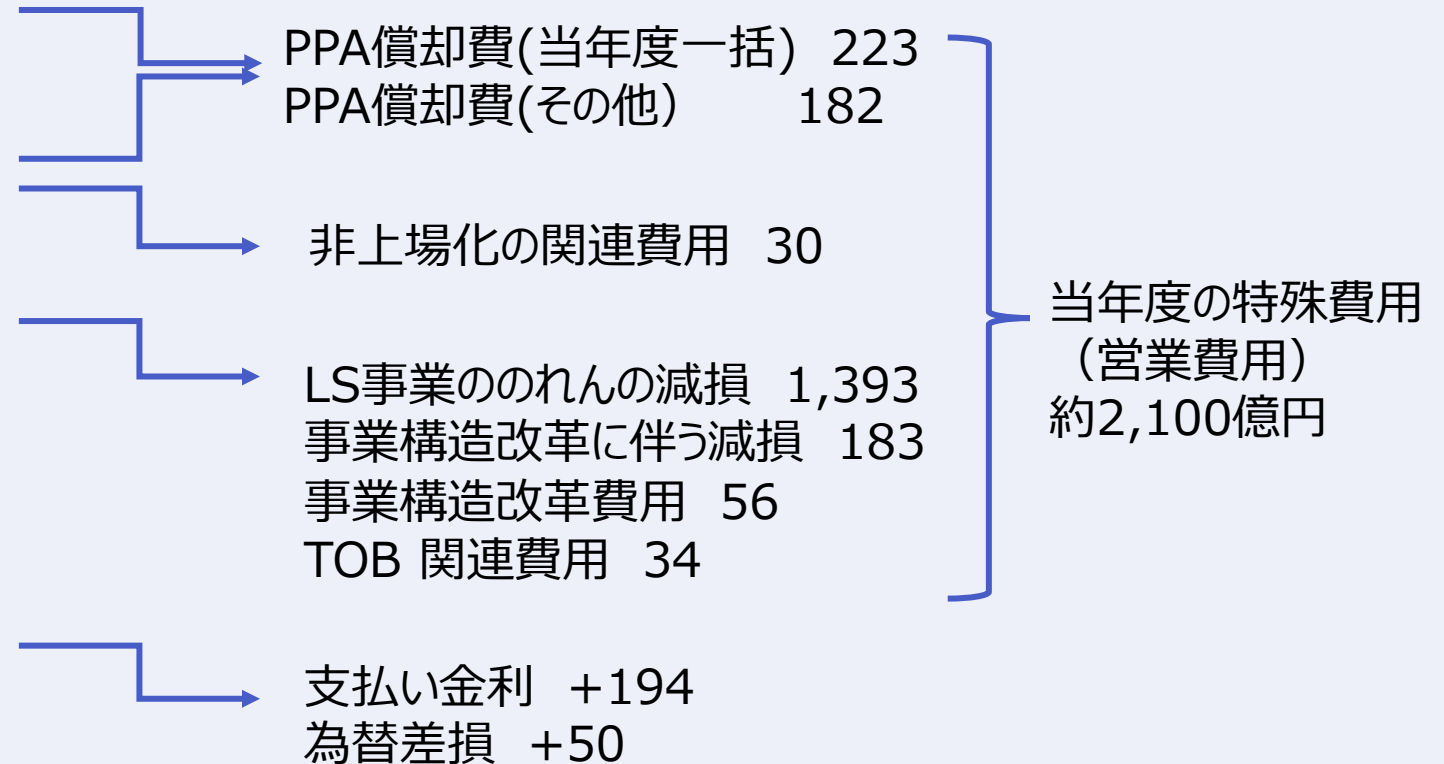
- DS：各事業増収増益。SEMIは過去最高益を更新
- PLA：ほぼ前年並み。販売量は減少もスプレッドを改善。
- LS：CDMO新工場の収益一部取り消し及び修繕による稼働停止、又IVD検査キット売上剥離により減収減益

(億円)		FY23	FY24	前年度からの増減	
				金額	%
連結	売上収益	4,046	4,050	+4	+0%
	コア営業利益	83	2	-81	-97%
	営業利益	36	-2,091	-2,128	-
	EBITDA	372	-1,386	-1,758	-
	当期純利益	-45	-2,177	-2,132	-
DS	売上収益	1,681	2,157	+476	+28%
	コア営業利益	203	431	+229	+113%
LS	売上収益	1,297	809	-488	-38%
	コア営業利益	-77	-387	-310	-
PLA	売上収益	928	933	+5	+1%
	コア営業利益	15	13	-2	-13%
その他 ・調整額	売上収益	140	150	+11	+8%
	コア営業利益	-56	-55	+2	-
為替	USD/JPY	145	153	+8	+6%

2-2 連結損益計算書

(億円)	FY23	FY24	YoY
売上収益	4,046	4,050	+0%
売上原価	2,698	2,895	+7%
売上総利益	1,349	1,155	-14%
販管費	1,257	1,613	+28%
その他の営業収益	27	26	-
その他の営業費用	83	1,659	-
持分法による投資損益	1	1	-
営業利益	36	-2,091	-
金融収益	26	52	+100%
金融費用	64	308	+381%
法人所得税	43	-170	-
当期利益	-45	-2,177	-
親会社所有者帰属	-56	-2,175	-
非支配持分	11	-2	-
期中平均為替 (USD/JPY)	145	153	+6%

主な増減(今年度特殊費用)



2-3 連結財政状態計算書

(億円)	FY23E	FY24E	+/-
流動資産	3,099	2,533	-566
現金及び現金同等物	1,006	529	-477
営業債権及びその他の債権	879	827	-52
棚卸資産	1,039	967	-72
その他	175	210	+35
非流動資産	4,614	8,887	+4,273
有形固定資産	1,749	1,800	+51
のれん	1,531	2,947	+1,416
その他の無形資産	495	3,537	+3,042
その他	839	603	-236
資産 合計	7,714	11,421	+3,707
流動負債	2,158	1,625	-533
営業債務及びその他の債務	797	811	+14
社債及び借入金	976	404	-572
その他	385	410	+25
非流動負債	1,531	6,099	+4,568
社債及び借入金	815	4,786	+3,971
その他	716	1,313	+597
負債 合計	3,689	7,724	+4,035
親会社の所有者に帰属する持分	3,758	3,386	-372
非支配持分	266	311	+45
資本 合計	4,024	3,697	-327

FY24の実績概要

JICC-02のTOB及び合併を反映。自己資本比率は減少。

- ・ 合併による借入金及び資本の増強。
- ・ 併せてのれん及びPPAに基づく無形資産の計上
- ・ 当期業績に伴う剰余金の減少

	FY23E	FY24E
純有利子負債	785	4,661
自己資本比率	48.7%	29.6%

FY25の見通し

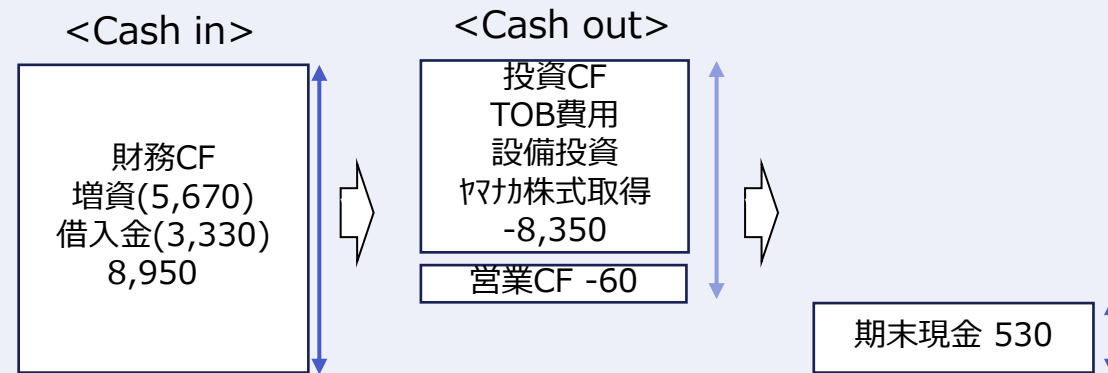
約40%へ自己資本比率の改善を見込む。

- ・ コア営業利益の改善(+300億円)
- ・ FY25の1QにETEC（株式価値72億円）、3QにIVDの事業譲渡（株式価値820億円）による資産売却益の発生。
- ・ 剰余金の増加及び借入金の削減。

2-4 キャッシュフロー計算書

	(億円)	FY23	FY24
営業活動によるCF		600	-62
税金等調整前当期純利益		-1	-2,347
減価償却費		335	527
減損損失		22	1,576
運転資本増減		236	77
売上債権の増減額		-55	20
棚卸資産の増減額		210	58
仕入債務の増減額		81	-1
その他		8	105
投資活動によるCF		-402	-8,346
設備投資		-401	-250
* 1 子会社又は関連会社株式取得		0	-8,131
子会社又は関連会社株式売却		0	0
その他		-1	35
FCF		198	-8,408
財務活動によるCF		34	8,947
有利子負債増減		151	3,333
自己株式の処分/新株の発行		0	5,671
配当金支払		-77	-20
その他		-40	-37
現金及び現金同等物に係る為替換算差額の影響額		48	-8
現金及び現金同等物増減		280	532
* 1 現金及び現金同等物の期首残高		726	0
売却目的保有に分類される処分グループに係る現金同等物		0	-3
現金及び現金同等物期末残高		1,006	529

FY24実績概要 (JICC-02のTOB及び合併を含む)



* 1: 吸収合併のため、FY24の「現金及び現金同等物」の期首残高は0円。FY23の期末残高1,006億円は、FY24の「子会社又は関連会社株式取得」の-8,131億円の内数。

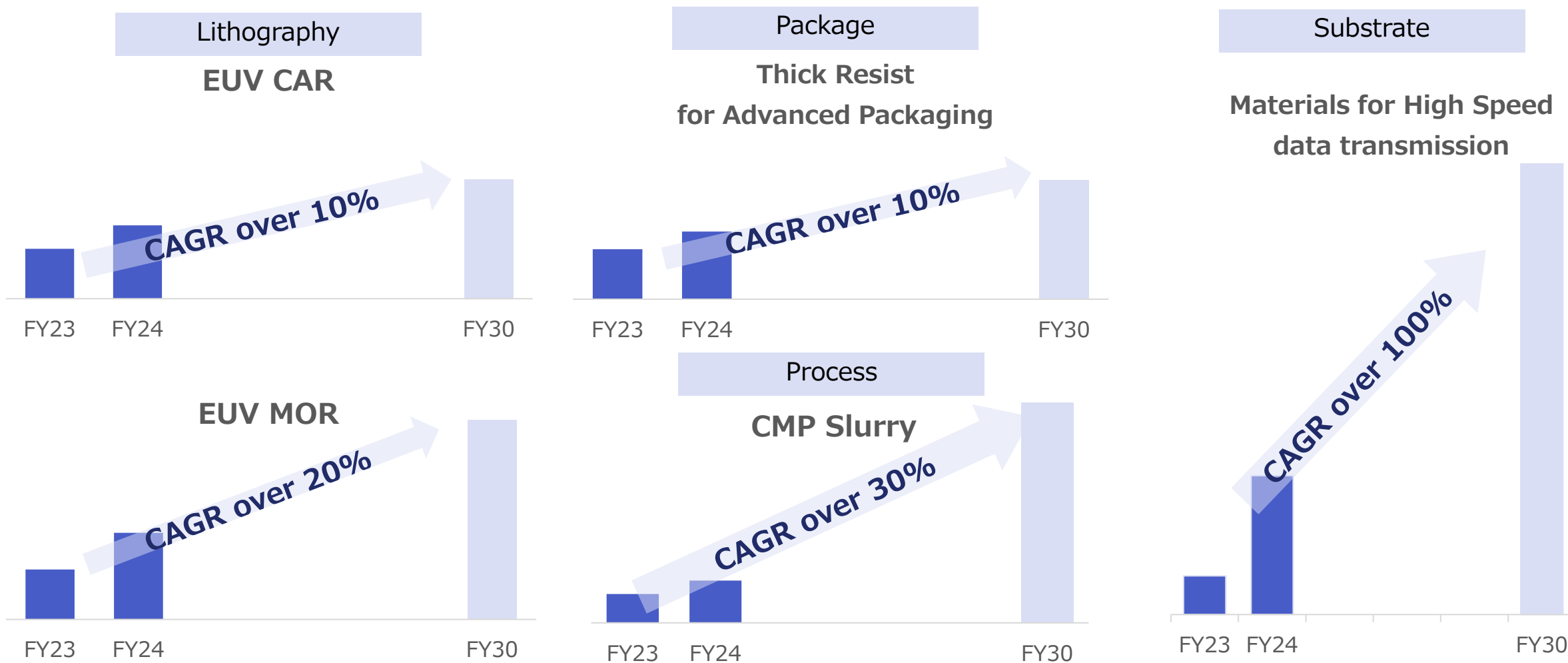
FY25の見通し

FY24に対しCFの改善を見込む。
 営業CF: コアOPの改善(+300億円)及び、
 FY24に発生したTOB関連、構造改革費用の削減
 投資CF: 事業譲渡収入(前ページ参照)
 FCF: 大幅な黒字を見込む
 財務CF: 利益及び事業譲渡収入による借入金の返済。

3-1 セグメント情報 – SEMI –

生成AI市場拡大を成長エンジンとし、当社は関連デバイス向けの多様な製品群を通じて、事業成長を加速していく。

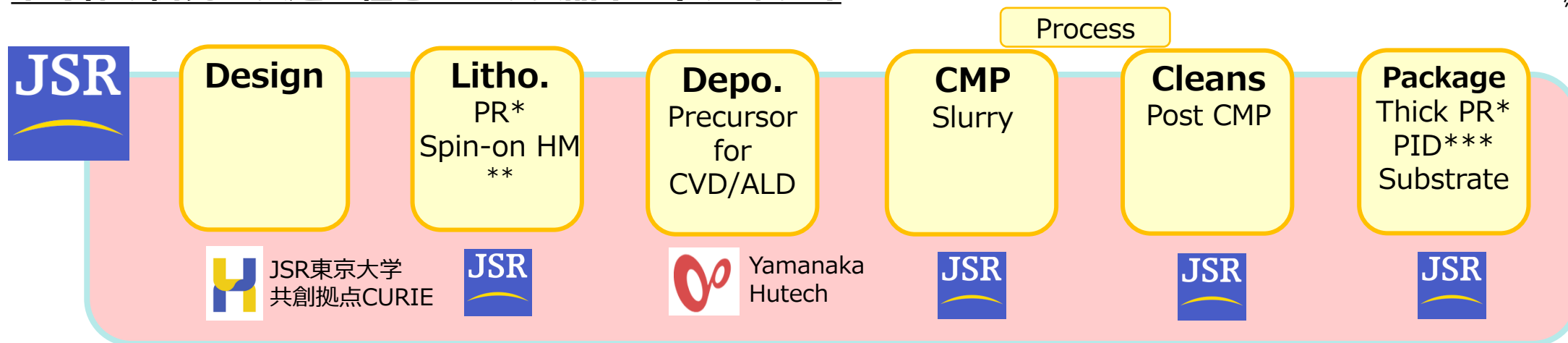
最先端半導体で使用されるJSR製品の販売見通し (FY23を1とした場合のCAGR)



3-2 セグメント情報 – SEMI –

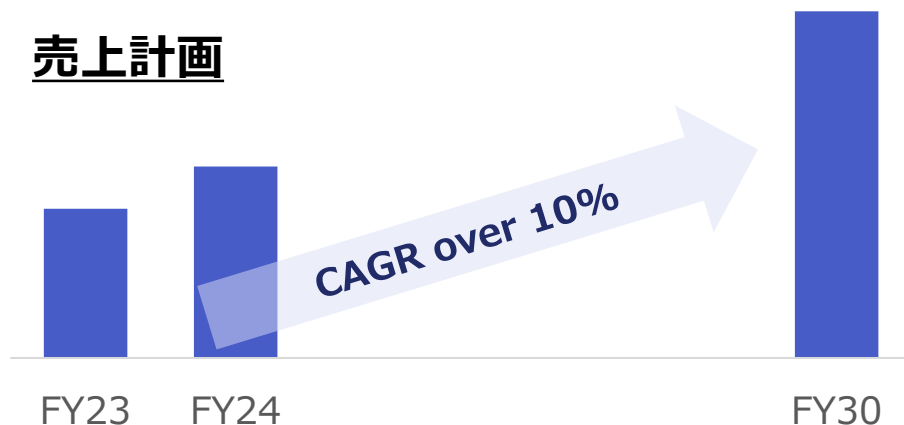
当社は、半導体製造に関連する幅広いプロセスをカバーする製品群をすでに保有しており、今後もFY2030に向けて、さらなる製品ポートフォリオの拡充とラインアップ強化を推進していく。

半導体の開発・製造工程とJSRの製品ポートフォリオ

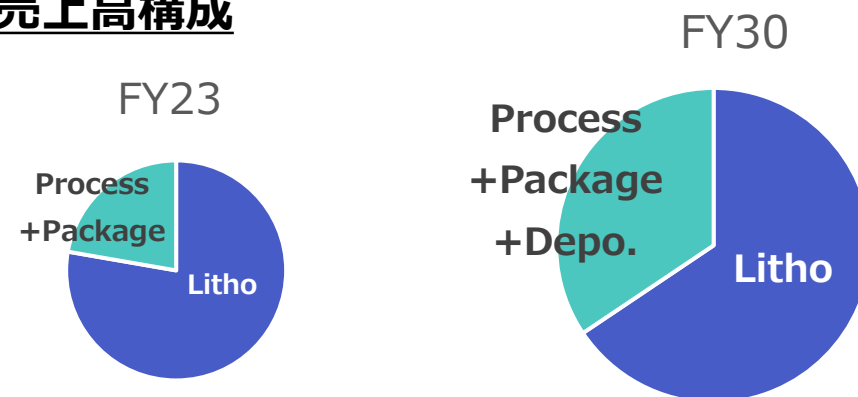


*フォトレジスト
**多層材
***感光性絶縁膜

売上計画



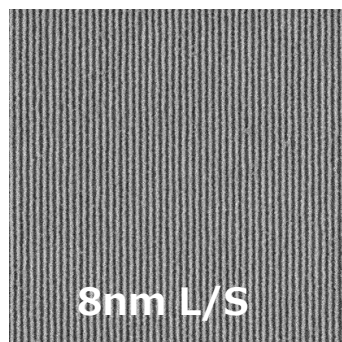
売上高構成



3-3 セグメント情報 – SEMI –

当社は化学物質を取り扱う企業として、持続可能な地球環境や社会の実現に貢献していく。
その一環として、PFASフリー材料の開発と市場導入を加速し、すでに実用レベルの製品展開を進めている。

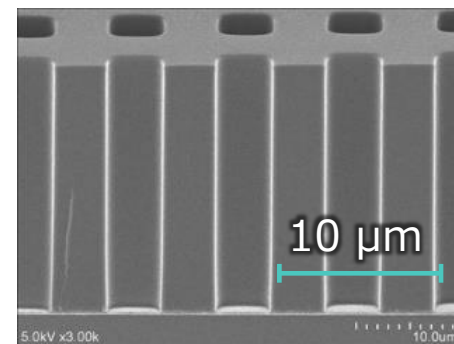
EUVメタルオキサイドレジスト



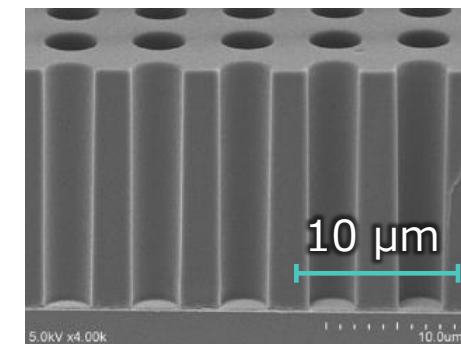
Eop: 48mJ/cm²
EXE5000@High
NA Lab

umec

めっき用厚膜レジスト

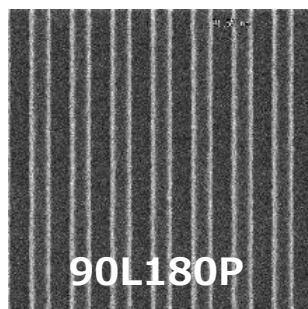


5 μm SQ / 25 μm FT



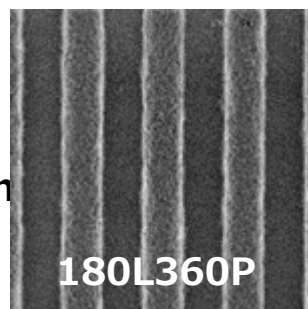
3 μm CH / 18 μm FT

ArFドライレジスト



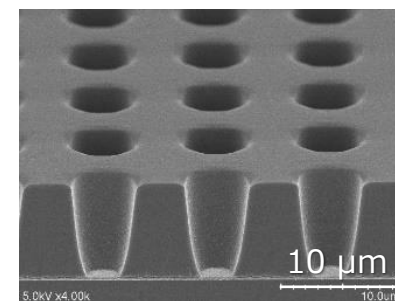
膜厚: 200nm
Eop: 23.4mJ/cm²
LWR: 5.23nm

KrFレジスト

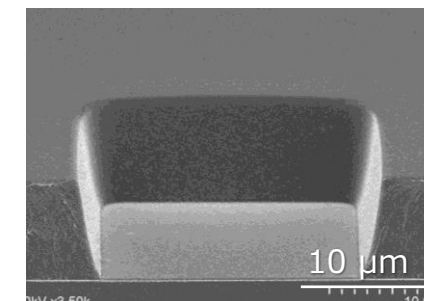


Eop: 33.3mJ/cm²
EL: 19.7%
DOF: 1000nm

感光性絶縁膜



2.5 μm-SQ

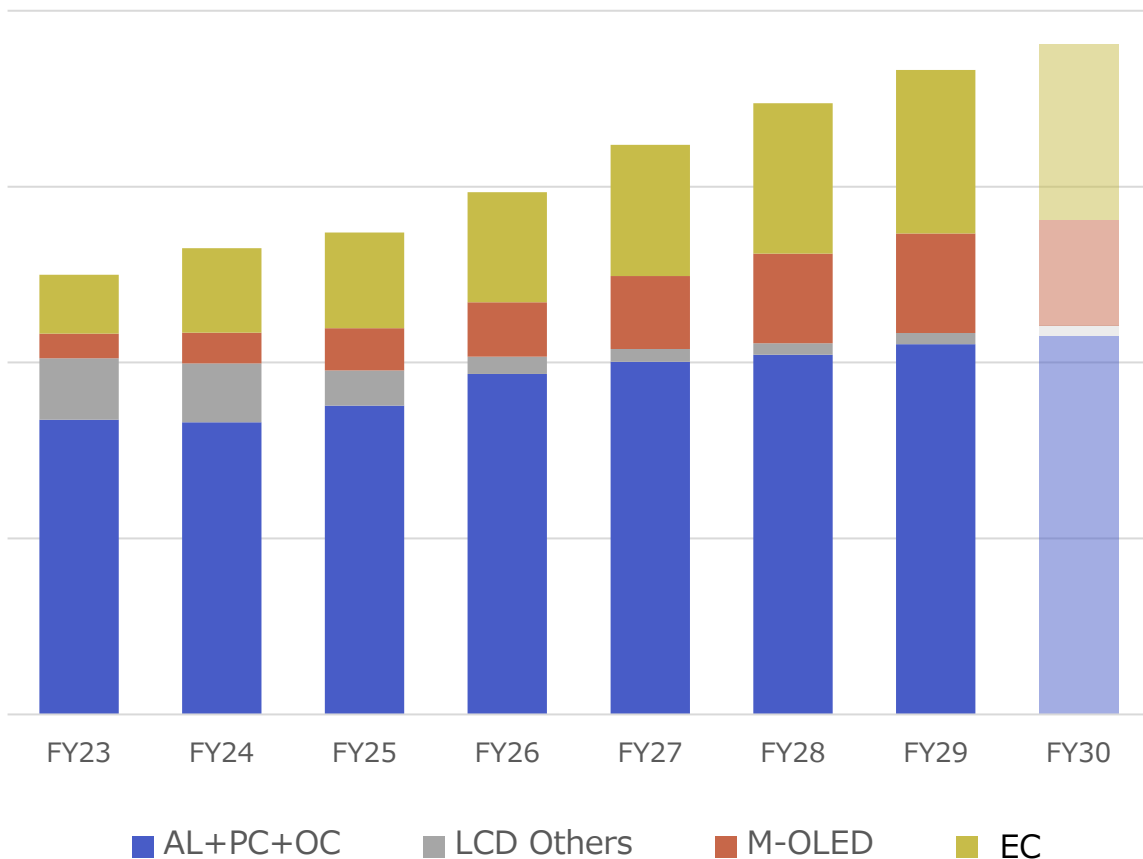


20 μm-SQ

3-4 セグメント情報 – DIS / EC –

大型～小型のディスプレイ市場においてトップシェア製品による安定成長と、OLED、エッジデバイス向け製品によるシェア拡大を通じFY30へ向け売上を拡大。業界にイノベティブなソリューションを提供しデジタル社会に貢献する。

売上計画

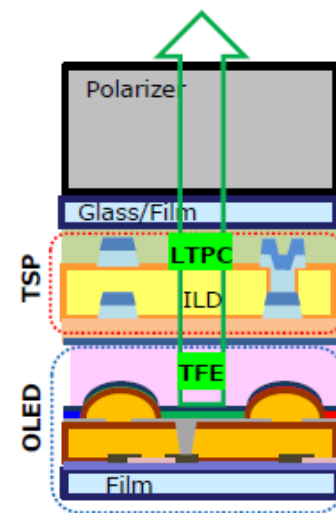


当社製品群

LCD材料	配向膜(AL)、絶縁膜(PC)、保護膜(OC)	世界シェア 1 位
M-OLED材料	下記参照	製品ポートフォリオが拡大
EC	ARTON樹脂 赤外線カットフィルター (NIR)	ARTONは大型パネル用途、NIRはスマホ用カメラ、センサー向け成長

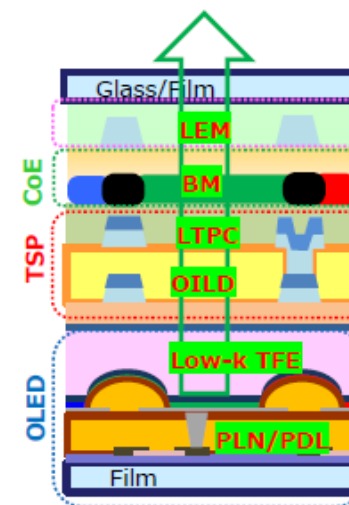
Mobile-OLED構造と当社製品

TAM: 100-oku@FY24



Conventional

TAM: 300-oku@FY28



Advanced

LEM:
Light Extraction Materials

BM: Black Matrix

LTPC:
Low Temperature
Passivation Coating

OILD:
Organic Inter Layer
Dielectric

TFE:
Thin film encapsulation

PDL:
Pixel Defining Layer

PLN:
Planarization Layer

3-5 セグメント情報 – PLA –

国内トップメーカーとして、特殊ABS樹脂の分野で高いシェアを確保。

自動車業界含む事業環境の変化に対応し、コスト構造の最適化と同時に、高付加価値分野へのシフトを加速していく。

成長戦略

1 高付加価値製品の拡販

▶ 戦略製品：

- ・ HUSHLLOY
- ・ VIVILLOY
- ・ PLATZON

既存品 + 新機能付加品

▶ 新製品群：

- ・ 産業資材向け新製品
(快適素材、サステナ対応等)

2 顧客ポートフォリオ拡大

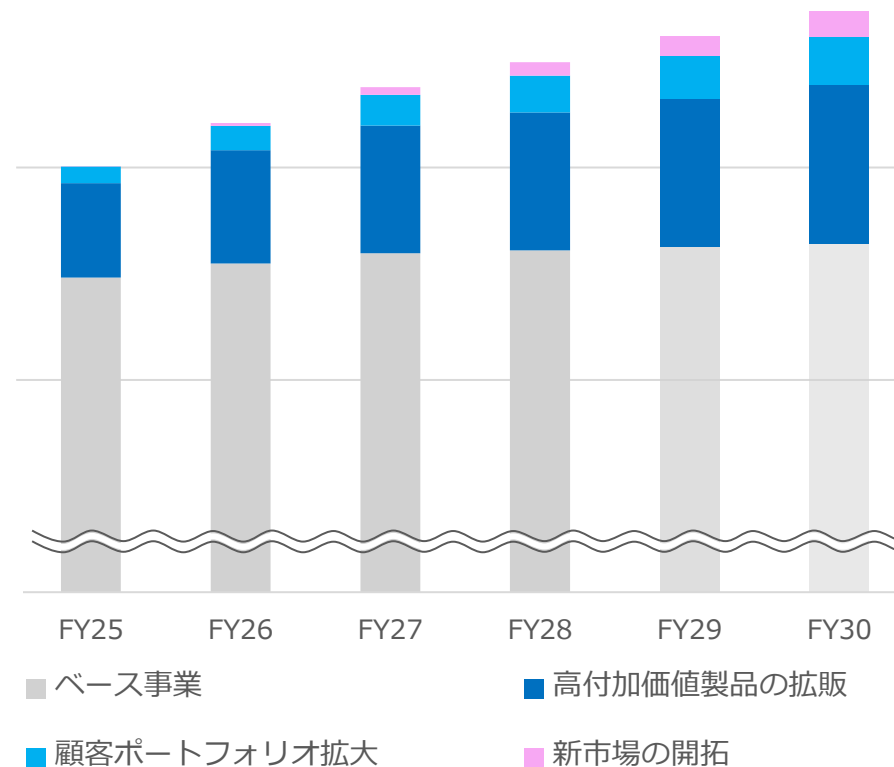
- ▶ 中国系自動車メーカー
- ▶ インド自動車市場
- ▶ 北米産業資材市場

3 新市場開拓

- ▶ ロボティクス関連
 - サービスロボット
 - 協働ロボット 等

4 コスト構造の最適化

売上計画



今後の方針

- DSの3事業(SEMI, DIS, EC)を成長ドライバーに中期計画を始動。
- PLAは高付加価値品へのシフトを強化していく。
- 将来は半導体材料業界の再編を伴う再上場を目指す方針に変わりはない。

- JSRレポート（統合報告書）

- ✓ 日本語版は[こちら](#)

- ✓ 英語版は[こちら](#)

- サステナビリティサイト

- ✓ 日本語ページは[こちら](#)

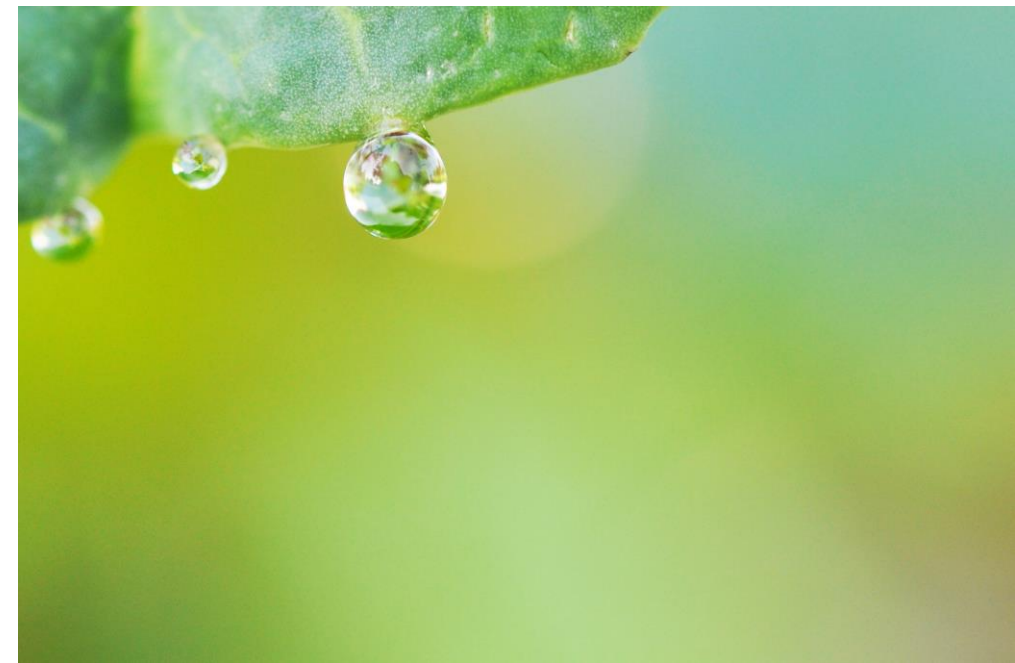
- ✓ 英語ページは[こちら](#)

- IR、メディアインタビューのお問合せ先

JSR株式会社 広報部

☎ : 03-6218-3517

✉ : jsr_koho@jsr.co.jp



#

EOD



Thank you.

